

織田信孝は織田信長（1534－1582）の三男で 1582 年から 1583 年のあいだ岐阜城の城主であった。信長の伊勢地方を重視する計画のため、信孝は神戸氏にそのリーダーとしてして養子に出された。1582 年に父親信長に四国征伐の命を受けた。しかし、侵攻前に信長は京都で信頼する武將の明智光秀（1528－1582）に裏切られ攻撃され死亡した。信孝は 1582 年もう一人の織田の武將豊臣秀吉（1537－1598）と素早く連携し、山崎の戦い（京都郊外）で明智光秀を滅ぼした。

父織田信長と長兄織田信忠（1557－1582）の死によって、次兄の織田信雄（1588－1630）との間に織田家継承問題が起きた。最終的に長兄信忠の幼子が豊臣秀吉の後見で織田家を引き継いだ。信孝は岐阜城を手にしたが、秀吉が父信長の地位の篡奪を目にして、信長の武將の一人柴田勝家と秀吉を攻撃するため手を結んだ。1583 年賤ヶ岳の戦い（滋賀県）の間に、信孝の兄信雄が岐阜城を包囲攻撃した。柴田勝家は賤ヶ岳で殺され、信孝は地位を弱められ、岐阜城の明け渡しを命じられた。愛知県知多半島の内海に追放され、秀吉と信雄に自刃させられた。